

「あいち外国人材適正受入れ・共生推進協議会」ワーキンググループ
(生活環境、日本語学習・日本語教育) 第4回会議 (合同)

コロナ禍における外国人支援

-愛知県内でのNPOの取組-

特定非営利活動法人
多文化共生リソースセンター-東海

1

団体概要

多文化共生分野の**中間支援NPO**として2008年10月に設立。

「**多文化共生**」は、活動分野（取組んでいる社会課題）

「**リソースセンター**」は、活動内容（社会資源の収集整理発信）

「**東海**」は、主な活動地域（愛知・岐阜・三重・静岡）

を表しています。

住所・連絡先

〒453-0041 愛知県名古屋市中村区本陣通5-6-1 地域資源長屋なかむら内
地下鉄東山線「本陣(ほんじん)」駅 2番出口から徒歩7分

【tel】070-4114-6268 【fax】050-3488-1414 【E-mail】mrc-t@nifty.com

【HP】<http://mrc-t.blogspot.jp> 【FB】<http://facebook.com/tabunka.tokai>

役員・スタッフ

理事7名、監事2名、スタッフ3名

*専従0名、非専従6名

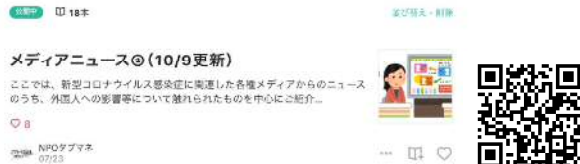
2

1 外国人支援に関する情報発信（全国）



新型コロナウイルス多言語情報参考まとめ

新型コロナウイルス多言語情報参考まとめ



<http://bit.ly/2lv5i3c>



<https://bit.ly/3a4d7s7>

■ 目的

公的機関等の情報発信・相談対応に役立つ情報を整理して発信。メディア等を通じて外国人への影響に注目を集め、対応を促す。

■ 対象

公的機関の広報・相談窓口担当者
メディア、一般市民

■ コンテンツ

- メディアニュース
- 民間による支援メニュー
- 政府による施策・支援メニュー
- 各地の多言語情報発信サイト
- 外国人からの相談事例

2 外国人支援に関する支援者ネットワーク（県内）

①関係者間の情報共有用非公開 facebookグループ 「あいち新型コロナ関連情報共有グループ（AICO-19）」

4月27日、NPOまなびや@KYUBANの声かけにより情報交換会開催（skype）
4月30日、情報共有FBグループ開設
メンバー：34名（NPO、自治体、国際交流協会等）

< 具体的な成果 >

- 各種情報共有→発信
- 相談会等への人的協力
- 食糧支援等への物資協力



2 外国人支援に関する支援者ネットワーク（県内）

② NPOおたがいさま会議への参画

<https://bit.ly/3k1b7ql>



5月19日、NPO法人レスキュー・ストックヤードにより第1回開催（zoom）
毎週火曜日16:00～17:00（17:00～コア会議）
各団体の課題と取り組みを共有し、相互に協力できることをマッチング
メンバー：約60名（NPO、自治体、社会福祉協議会、企業、学生等）

<具体的な成果>

- 災害支援NPOによる
生活物資の提供
- 大学生による
オンライン日本語講座
- 名古屋市社協による
ボランティア活動促進講座



- 第1回（5月19日）こどもNPO、セカンドハーベスト名古屋など
- 第2回（5月26日）ボラみみより情報局、地域福祉サポートちた、日本福祉協議機構など
- 第3回（6月2日）のわみ相談所
- 第4回（6月9日）多文化共生リソースセンター東海、NPO まなびや@KYUBAN
- 第5回（6月16日）徳林寺、在東海ベトナム人協会

3. 公的支援制度の拡充に関する提言（全国・県内）



- ・厚労省HPの意味不明な機械翻訳
→3/4～人手による翻訳に
- ・帰国困難者の就労制限・支援対象外
→5/20～一部就労可、給付金等の対象に

社会福祉法人 愛知県社会福祉協議会

新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた生活福祉資金貸付制度における緊急小口資金等の特例貸付の実施について

- 3/10～ 制度開始
- 3/24 電話確認→「永住者」に限る
-
- 4/14 あいちコミュニティ財団
→県社協役員に相談
- 4/30～ 東海ろうきん窓口
→在留資格を問わず
- 5/15～ 社協窓口でも同様に

◆記入いただくもの（多言語翻訳版）

※こちらは申請に必要な書類のご案内です。申請には使用できません。

This is a guide to the documents required for application.
It cannot be used for application.

- ① 英語 (PDF2,080KB)
- ② 中文簡体字 (PDF1,827KB)
- ③ 韓国語 (PDF1,734KB)
- ④ スペイン語 (PDF1,898KB)
- ⑤ ポルトガル語 (PDF432KB)
- ⑥ ベトナム語 (PDF2,251KB)

4. 帰国困難者等への生活支援等

相生山 徳林寺（名古屋市天白区）

- ・ 在東海ベトナム人協会より、帰国困難者等の支援要請
- ・ 4/18～帰国困難者の受け入れを開始
 - 【条件】
 - ・ 帰国希望であること
 - ・ 住居喪失または家賃支払い継続困難
 - ・ 入管への出頭
 - ・ ベトナム大使館への帰国申請
 - ・ 母国の家族等への連絡
 - ・ 生活ルール遵守（菜食、飲酒厳禁）、etc.
- ・ 10/15までに全国から約120名を受け入れ
 - 約8割が技能実習性（他、留学、技・人・国、難民申請中）
 - 約8割が超過滞在（他、短期滞在・特定活動に変更）
 - 現在、約25名が滞在（2週間に10人程度の増減）

4. 帰国困難者等への生活支援等

主な支援内容

■ 徳林寺

- ・ 住居・食事提供
- ・ 生活・健康相談
- ・ レクリエーション
- ・ 移動支援
- ・ メディア対応
- ・ 外部からの問い合わせ対応
- ・ 活動資金調達（寄附）

■ 在東海ベトナム人協会

- ・ 入居希望者者受付
- ・ 親族等との連絡調整
- ・ 生活ルール・マナー指導
- ・ 大使館・領事館との交渉

■ 多文化共生リソースセンター東海

- ・ 活動資金調達（助成金）
- ・ 生活資金補助（寄附）
- ・ 転出届・住民票除票の取得
- ・ 給与未払いについて労基署への申告
- ・ 銀行口座等の取引再開
- ・ 監理団体への帰国費用の支払い請求



4. 帰国困難者等への生活支援等

<メディア掲載>

6/12、KOKORO：名古屋の駆け込み寺「徳林寺」
<https://bit.ly/352GwlZ>



7/20、中京テレビ：「悲しいおめでとうだね...」
コロナに翻弄されるベトナム人救った名古屋の住職
<https://bit.ly/32Mo6Xe>



9/26、FNNオンライン：コロナで仕事失い帰国も出来ず...
居場所なくしたベトナム人の『駆け込み寺』
<https://www.fnn.jp/articles/-/88185>



10/1、中京テレビ：新型コロナで困窮のベトナム人
名古屋の寺に身を寄せ...“大きな家族”支える住職の“無償の愛”
<https://bit.ly/3n8KOk4>



5. 今後に向けて

懸念されること

- **新規・継続支援メニューの不足**
- 各種支援金、食料等生活物資
- **広まる情報格差**
- Go To XX等、景気回復策は対象外？
- **支援活動の継続困難・規模縮小**
- 支援団体の活動停止、資金不足
- **教育・経済・治安等への影響拡大**
- 廃業、正規滞在化、不法就労、公的支援対象外
- **産官学民の連携が弱体化**
- “本業” への専念

対応策

- 実態把握**
- 情報共有**
- 連携・協働**

人

人々のつながりを築く ～ NPOまなびや@KYUBAN

港区にある九番団地にはおよそ300世帯もの外国人が暮らしています。NPOまなびや@KYUBAN(名古屋市中区)は、ここで2か月に一度、住民に対し健康チェックを行っています。感染が拡大した4月、健康チェックに代えて食料配布とアンケート調査を始めました。どこに困っている人がいるか、どんなことに困っているかを把握し、さらに支援を求めたい人には、詳しく聞き取り、解決策と一緒に考えました。卵や食料を渡す際には、農林水産省の「花いっぱいプロジェクト」*の一輪のカーネーションを添えました。食料を受け取りに来る人たちに「恥ずかしい」という気持ちはさせず、尊敬を守りながら必要な支援を届ける。こうした配慮により、お互い顔見知りになりました。

また4月中旬には、団地内に困りごとを書いて投函できるポストを設置し、たとえば「マスクがない」という声に応え、玄関のドア越しにマスクを届けました。あわせて、集会場に掲示板を設け、国の支援策や相談窓口のほか、近所のスーパーの営業状況などの、有益な情報を張り出したところ、情報が増えています。



このほか、休業要請により、厳しい状況を強いられた団地周辺の飲食店を1軒1軒回り、持続化給付金などの事業者向け支援策を伝え、申請のサポートをしました。外国人だけで経営する飲食店では、こうした支援策を知らず、申請できなかったところが多くあります。代表の川口祐有子さんは「こんな時だからこそ、人と人とのつながりが築き、信頼関係を強め、支え合わなければならぬ。そうしたい」と話します。

*花いっぱいプロジェクト：
新型コロナウイルスの影響で需要が減少している花きの消費拡大を図るために農林水産省が実施したプロジェクト



来てきたものではないことに気が付きました。どうやら前の住居宛に届いたものだったようです。その場合は大笑いして終わったのですが、カタカナが読めない、他人の名前が書かれていることにすら気づけないうような現実を目の当たりにしました。

NPOまなびや@KYUBANが、5月下旬から1か月ほど開催した特別定額給付金申請書の記入方法と生活についての相談会に、NICも協力しました。
フィリピン人の女性は、自宅に届いた国民年金の振込用紙を持って、「これは何か」と相談にやってきました。書類の内容を一通り説明した後で、本人宛に送ら

対等な立場で楽しく過ごせる居場所を ～ 徳林寺

徳林寺(名古屋市中区)は、新型コロナウイルス感染症の影響で飛行機が飛ばず、帰国できなくなったベトナム人を受け入れています。多い時で50名を超える人たちが寝食を共にしています。在東海ベトナム人協会(名古屋市中区)が、仕事や住む場所を失い困っている在留ベトナム人たちをSNSで集め、同協会からの依頼に快く応じた徳林寺での受け入れが実現しました。不安な日々を過ごす彼らの精神的ケアも大切で、週に1回のボランティア医師と看護師による健康チェックは、ストレスの軽減に大きな役割を果たしています。

住職の高岡秀暁さんは、ネパールに15年ほど滞在した経験があり、今でもネパールとの交流を続けています。その縁で、30年ほど前から、難民申請中の人や仏教を学ぶ留学生、日本人のホームレスなどに対して、居場所として「みんなの家」を開放してきました。「みんなの家」は誰にでも開かれた場所。地域の人々や教会、ボランティアが



ループ、NPOなどと多様なつながりが生まれています。
「お世話する、支援する」ということではなく、ここに来たら誰でも対等な立場。一緒にいることが楽しい。大切なのは「今いる場所を楽しめる」ということ。いろいろな企画をしていって、ご縁が生まれる。彼らがいいご縁を作ってくれた。私が彼らを助けたのではなく、彼らに助けられているのです」と高岡住職は話します。お寺を中心に、さまざまな人が集い、交流し、助け合う。無事に帰国した後も彼らはきつと徳林寺での生活を忘れることはないでしょう。

命をつなぐために ～ カトリック南山教会

カトリック南山教会(名古屋市中区)には、仕事やアルバイトが無くなり、深刻な生活困難に陥った人たちが多くの相談が寄せられました。とにかく彼らの命をつなぐなければ」と、南区厚生生活協同組合(本部:名古屋中緑区)などの協力により集まった食料を箱に詰め、届ける活動を始めました。

Facebookで呼びかけたところ、ベトナム人を中心に、日系ブラジル人、タイ人、インドネシア人など多くの人が支援を求め、声が上がりました。1つの箱の中には、米5kg、砂糖1kg、調理油10L、カップラーメンなどれも平等にな



向き合う ～ THIRD PLACE

飲食業で働くネパール人留学生たちが、休業要請により仕事が減り、生活に困り始めた4月末ごろ、三田村幸雄さんが経営するレストラン「THIRD PLACE」(名古屋市中区)では、ランチの無料提供に踏み切りました。土日には店の前の炊き出しも始め、国籍問わず、来る人みんなにネパール料理を振る舞いました。食べるものに困った日本人も含め50名ほどが料理を受け取りました。奇贈しもらった食材をそのまま配れば、調理のための光熱費はかかりません。しかし、そうしなかったのは、日本の生活が長くないネパール人留学生たちに、日本の食材をそのまま配ってもあまり役に立ちません。必要なものしか配らなければならないという彼らのプライドを尊重するた



めにも、彼らに受け取ってもらえるように集まった食材を調理して配ることにしました。

三田村さんは、彼らに日本で働く上で求められる、時間を守ることや身体を清潔に保つことなどをきちんと伝えることが必要だと考えています。彼らが損をしないように、共同生活の中でそうした習慣を身に付け、日本での生活をよりよいものにできるよう、寮を運営しています。時には厳しく注意することもあります。アルバイト先の店長や就職先の上司の信頼を失わないように、心を鬼にして嫌われ役を買って出ます。給付金などの申請を手伝いながら、もらったお金はずぐに使わず、いざという時のために貯めておくことも口うるさく伝えました。ネパール人留学生たちとことん向き合い、彼らのいい面も悪い面もよく知る三田村さんは、「彼らの中では、何か悪いことをしている人に対して三田村さんに言うより決まり文句になっているよ。うです」と笑います。

労働者としての権利を学ぶ ～ Aichi Migrants Workers

感染症拡大の影響を受け、外国人の雇用環境は悪化しています。ロサナタビルさん(フィリピン出身)は、労働者を保護するための法律や制度を知らないまま、弱い立場で働く外国人労働者のために、6月末、「Aichi Migrants Workers=AMW」を立ち上げました。有給休暇や労災のことを知らず、雇用主に言われるがまま、立派な労働者や派遣会社に掛け合ったり、労働法に詳しいメンバーから、労働者の権利を学ぶオンラインセッションを開催したりしています。AMWに相談を寄せる人たちは、フィリピンを中心に、中国やパキスタン、ブラジルなど国籍もさまざまです。

実は、ロサナタビルさん自身もコロナ禍で解雇にあい、求職活動のためハローワークに通っています。自身が大変な状況にもかかわらず、そこで出会った外国人たちに、国や自治体の支援策について積極的に伝えたり、悩みを聞いたりしています。彼女を突き動かしているのは、

フィリピンの「Bayanhan(バヤンハン)=助け合い」精神と、自分自身から日後に日本語や法律の壁にぶつかった経験です。苦勞をしたからこそ困っている人の気持ちがわかる。勉強して得た日本語能力と法律の知識を人のために役に立てたい、と強く思っているからです。

「日本に暮らす多くの外国人が悩んでいる。仕事が減り、大変な生活を強いられるから。でも私たちの一番大きな悩みは、収入が減ると母国に離れて暮らす家族を助けられないこと。心配でたまらない。自身が苦しい生活の中でも、なおも家族を思い、助けられないことに苦悩する彼女たちの現実があります。」



連携へ ～ あいち新型コロナウイルス関連情報共有グループ(AICO-19)

4月末、愛知県内の外国人への感染症の影響について情報交換するため、愛知県や名古屋市、県内の外国人支援団体によるオンライン会議が行われ、NICも参加しました。会議後は参加団体とSNSを通じて、国や自治体、各地域の動きを情報共有し、外国人に向けて最新の情報を提供できるよう努めています。参加団体から「〇〇団地で食料配布をしている団体を教えてください。」「〇〇の多言語翻訳はありますか?」などの問いかけに対し、情

報を持っている人たちがすぐに反応し、有意義な情報共有が実現しています。こうした支援団体同士のネットワークは、迅速に問題を解決するために必要不可欠なものです。今回、臨時的に発足したグループではありますが、今後も情報を効率的に共有し、外国人相談者の悩みがスムーズに解決できるように、このつながりを大切にしていきたいものです。

今後に向けて

国や自治体から出された情報に対して、複数か所を翻訳する必要がある、すでに共有しているものを手分けして作業すれば、より迅速に多くの情報が多言語化できます。そのためには情報をコーディネートをする役割と仕組みづくりが必要です。そして、多言語化された情報が効果よく確実に必要としている人に届くよう、キーパーソンとなる外国人やコミュニティとのネットワークが欠かせません。

また、さまざまな支援を通して、外国人と支援者、困っている人同士、支援者同士などいろいろなつながりが生まれ、相互に補い合いながら、深めていくことで、それぞれの強みを活かし、相互に補い合いながら、問題解決に向けて取り組むことが求められます。こうした困難な状況下では、社会的接点の少ない外国人は孤立する傾向にありますが、誰一人取り残さない、孤立させないために、改めて今回浮き彫りになった課題に取り組みでいかねばならないと強く感じています。

日本で暮らす外国人たちが、コロナ収束後も日本に留まるのか、それとも見切りをつけて他の国へ移ってしまうのか、今後の対応にかかっています。

- ▶ 同胞の人たちのために必要な情報の翻訳や、通訳、生活相談を行うなど、自発的な活動を続けていた外国人たちがいる。
- ▶ 支援を通してさまざまな人たちの間につながりが生まれている。
- ▶ SNSを利用する留学生をはじめ外国人が多く、SNSの活用により情報が拡散されやすい。
- ▶ 「やさしい日本語」や多言語による情報を頻繁に発信したのが、重要な情報が確実に届いているかは把握できない。
- ▶ 不安やストレスを抱える人が多く、精神的なケアが必要である。
- ▶ 生活困窮や仕事による移動など、家庭の事情により子どもの教育を継続させることが難しくなる。

新型コロナウイルス感染症の拡大に翻弄される外国人の存在と彼らを支援する取り組みをみてきました。今回の取材を通して、さまざまなことに気づきました。

NPO

おたがいさま会議



新型コロナウイルスの諸課題を出し合い できることから支え合うプラットフォーム@愛知

新型コロナウイルスの影響は、生活困窮者や子ども、高齢者、障がい者、女性、外国人などの社会的弱者をますます追い詰めています。NPO や市民団体は、そうした人たちを支援する存在であるはずですが、コロナ禍で、いまだ思うように活動ができていません。この課題に「おたがいさま」の精神で手を結び、共に前へ踏み出そうと、「NPO おたがいさま会議」を2020年5月に立ち上げました。これまでに愛知県内約60団体の関係者らで意見交換の場を持っています。



9月末までの5カ月間に17回のオンライン会議と、それ以上の数に上るコアメンバー会議を開き、課題を共有。一つ一つの解決策を探り、団体同士のマッチングによる成果が積み上がってきました。しかし、コロナ対応は長丁場です。ぜひ今後もより多くの皆さま方の参加と協力を賜りたく、お願い申し上げます。

裏面に
マッチング
事例紹介など

公式ホームページ <http://otagaisama-aichi.xxxx.jp/> (右下QRコード)

対象

愛知県内のNPO活動に関心のある方なら、誰でも参加できます。(NPO、営利企業、自治会、個人など、所属や分野は問いません)

参加方法

ホームページ内の「参加の方法」から、初回登録フォームにご記入ください。または、裏面の事務局へお問い合わせください。





これまでの主なオンライン会議 原則、毎週火曜 16:00~17:00 団体名・個人名は報告者

- 第1回(5月19日) こどもNPO、セカンドハーベスト名古屋など
- 第2回(5月26日) ポラみみより情報局、地域福祉サポートちた、日本福祉協議機構など
- 第3回(6月2日) のわみ相談所
- 第4回(6月9日) 多文化共生リソースセンター東海、NPO まなびや@KYUBAN
- 第5回(6月16日) 徳林寺、在東海ベトナム人協会

- 第8回(7月7日) 令和2年7月豪雨報告／ベーカリーハウスわっぱん&ソーネショップ
- 第9回(7月14日) 風の会
- 第10回(7月21日) ささしまサポートセンター
- 第12回(8月4日) 小幡緑地冒険遊び場の会・つなしょ
- 第13回(8月18日) 浜松医科大学健康社会医学講座・尾島俊之教授

マッチング事例 1 生活困窮者支援 × 災害支援 × リユースショップ × 就労支援

第3回会議で一宮市の生活困窮者支援「のわみ相談所」が運営に苦しんでいるとの話を受け、名古屋から災害備蓄品の下着類を提供。さらにリユースショップとの

連携や、民間企業による就労支援の可能性も探られました。生活困窮者に対する“支援の支援”は名古屋のささしまサポートセンターを通じても対応しています。



マッチング事例 2 外国人支援 × 企業 × 学生ボランティア



コロナ禍で就労も帰国もできなくなったベトナム人たちが身を寄せていた名古屋市天白区の徳林寺の状況を、多文化共生リソースセンター東海を通じて把握。

企業から市社協に預けられていたペットボトル水を提供したほか、愛知淑徳大学の学生ボランティアによるオンライン日本語教室の開催も実現しました。

マッチング事例 3 重症心身障害者通所施設 × 子ども支援

名古屋市緑区の重症心身障害者通所施設「風の会」の状況を第9回会議で共有。感染症への対応はもちろんのこと、利用者の楽しみがなくなっているとの報告を受け、こどもNPOが実施してき

た交流イベント「表現ひろば」を施設向けに開催。利用者がオンラインの画面を通じて子どもたちと交流しながら体を動かすことができ、大変好評！ 2回目の実施も決まりました。



さらに情報や支援をお寄せください！

コーディネーター

石黒好美(ライター/社会福祉士)、小池達也(フリーランス)、栗田暢之(レスキューストックヤード)、関口威人(ジャーナリスト/なごやメディア研究会)、土井佳彦(多文化共生リソースセンター東海)、萩原喜之(三河の山里コミュニティパワー)、濱野剣(日本福祉協議機構)、根岸恵子(こどもNPO)

=50音順、2020年9月現在

事務局

認定NPO 法人レスキューストックヤード、一般社団法人日本福祉協議機構協力
愛知県、名古屋市、愛知県社会福祉協議会、名古屋市社会福祉協議会